

2025年度

事業計画書

2025年 4月 1日から
2026年 3月31日まで

公益財団法人 豊田理化学研究所

1. 研究事業

1-1. フェロー研究活動

(1) フェローの状況と研究テーマ

2025 年度の常勤フェローは、継続 1 名で、表 1 に記載したテーマについて研究を進めてまいります。

なお、この常勤フェローは、大学の研究拠点にて研究を実施しています。

表 1. 2025 年度 常勤フェローと研究テーマ

在籍	氏 名	研究テーマ
4 年目	前野悦輝（京都大学 名誉教授）	非従来型超伝導物質の研究

(2) フェロー研究報告会

フェロー研究報告会を 2 月に開催し、研究活動の成果を紹介いたします。
集会方式とオンライン方式のハイブリッドで実施する予定です。

表 2 に開催予定を記します。

表 2. フェロー研究報告会

通算 回数	実施年月	発表者	場所
37	2026 年 2 月	・在任最終年 常勤フェロー	井口洋夫記念ホール

(3) 豊田理研ワークショップ

豊田理研が主催するワークショップは、フェローが中心となって、国内外の著名な研究者を招聘し、特定の研究分野に関して集中的に議論する場を提供することで、各研究分野の進展に寄与しようとするものです。

2025 年度は、表 3 に示す 1 件を集会方式で実施する予定です。

表 3. 2025 年度 豊田理研ワークショップ開催予定

通算 回数	実施年月	代表者	テーマ	場所
17	2025 年 12 月	前野悦輝 フェロー	Ruthenates and Emerging Quantum Materials (REQM2025)	京都大学 100～150 名程度

1-2. 学術談話会の開催

1-2-1. 豊田理研懇話会

「最先端で活躍されている著名な先生をお招きして難しいことをやさしく話していただく」豊田理研懇話会は、豊田中央研究所との協賛で、研究事業の一環として年3回実施しています。ホームページにも公開し、常勤フェロー他、近隣の大学、研究機関の方々にも参加いただいて、活発な討議をしていただきます。2025 年度も3回開催する予定です。

1-2-2. 物性談話会

「物性談話会」は、物性物理学研究者の啓発を図る事を目的に、名古屋大学との共催で、2025 年度も8回開催いたします。表4に開催予定を記します。

表 4. 2025 年度 物性談話会開催予定

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2025 年 5 月	東京大学 准教授 山口哲夫	生物素材科学におけるソフトマター物理
2	2025 年 6 月	沖縄科学技術大学 教授 Nic Shanon	量子スピン系の理論
3	2024 年 7 月	法政大学 教授 川畑史郎	量子力学から量子コンピューティングまで
4	2024 年 8 月	東京大学 教授 酒井崇匡	超強靱ゲルの物理学
5	2024 年 9 月	慶應義塾大学 准教授 森 貴司	開放量子系、および周期駆動系における非平衡ダイナミクス
6	2024 年 10 月	東京大学 教授 常行真司	極限条件下における物質構造と物性の計算物理学
7	2024 年 11 月	東京大学 准教授 池田昌司	コロイド系におけるフォースネットワークの統計力学
8	2024 年 12 月	東京大学 准教授 橋坂昌幸	分数量子ホール系の最近の実験的進展

1-2-3. 分子科学フォーラム

「分子科学フォーラム」は、分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供することを目的に、分子科学研究所と共催で 2025 年度も 4 回開催いたします。例年同様、市民講座として一般の方々にも公開いたします。
表 5 に開催予定を記します。

表 5. 2025 年度 分子科学フォーラム開催予定

回	実施年月	講演者	講演テーマ
1	2025 年 7 月 10 日 (木)	名古屋大学 教授 唯 美津木	観ることで広がる触媒の世界 オンライン
2	2025 年 11 月 13 日 (木)	分子科学研究所 教授 岡本裕巳 (一般公開特別公演)	「ねじれた光」で見る左と右，鏡写しの世界 オンライン
3	2026 年 1 月 26 日 (木)	東京科学大学 准教授 伊澤誠一郎	分子を使った光電変換の科学 ～革新的発光・発電素子の実現に向けて～ オンライン
4	2026 年 3 月予定	機構シンポジウム特別講演 未定	未定 対面

2. 助成事業

2-1. 豊田理研スカラー

2-1-1. スカラーの状況

博士の学位を有し、所属大学の推薦を受けた優秀な若手教員の中から、研究課題が当所の設立趣旨、目指す方向と合致する方々を選定し、研究費用の一部を助成する制度です。

2025年度スカラー募集は、20大学（工学系研究科、理学系研究科、農学系研究科に加え大学付属の研究所）を指定校とし、一般応募枠も募集を展開しました。

外部委員6人の審査委員で審査を行った結果、116名の応募者の中から、表6に示す60名を採択候補として選定いたしました。

採択された研究者には1年間規定の助成金を支給すると共に、助成金獲得が実績となるように贈呈書を発行します。

表 6. 2025 年度 豊田理研スカラー採択候補者 … 60 名

No	大学名／専攻		氏名	職位	研究テーマ
1	北海道	工	菊川寛史	准教授	異なるタンパク質発現系を用いて生産した酵素の機能転換の実証
2		理	増田侑亮	助教	結合切断を鍵とするホスフィン配位子の多様性指向型合成
3			松岡慶太郎	助教	繰り返し構造の自在制御を可能とするマロン酸エステル合成型重合法の開発
4	東北	工	大塚啓介	准教授	次世代ロボット実現に向けた数式変換を代替するAIの構築
5			神永健一	助教	ナノグラデーションスピントロニクスの開拓
6		多元物質研	福山真央	准教授	マイクロ流体を用いたタンパク質凝集体検出法開発
7			岡村秀紀	助教	薬理活性の時空間制御を可能とする光分子構築法の開発
8		金属材料研	谷口貴紀	助教	連携量子ビーム法による量子二重臨界性の研究
9		学際科学フロンティア研	松林英明	助教	細胞走化性の再構成に向けたPI3Kの光操作とin vitro再構成
10		薬学	菊池 隼	助教	超原子価ヨウ素骨格を基盤とした刺激応答性キラル分子の設計と機能開拓

11	東京	工	岸本史直	講師	ナノメンブレン被覆による担持金属ナノ粒子触媒の高機能化・新機能付与
12		理	谷藤 涼	助教	核内現象を制御するマクロ環状中分子群の化学-酵素合成
13		農学生命科学	藤田 卓	助教	理論と実験を統合したオルニチンの相反的な代謝制御を最適化する薬剤候補探索
14		生産技術研	安村駿作	助教	ニューラルネットワークポテンシャルを活用した触媒活性点の局所構造と活性予測
15		物性研	川口海周	特任研究員	エネルギー・運動量空間で見るスピンと光が駆動する光スピントロニクスの新展開
16		新領域創成科学	吉見龍太郎	准教授	強誘電トポロジカル絶縁体における物性開拓
17		薬学	牛丸理一郎	助教	天然物生合成酵素を利用した酸素依存性環化反応の開発
18		総合文化	大熊 光	助教	強いスピン軌道相互作用を持つペロブスカイト新物質作製で拓く磁気輸送現象の学術
19	東京科学大学	物質理工学院	安原 颯	助教	二相共存によるリチウムイオン伝導率向上と原理解明
20		フロンティア材料研	半沢幸太	助教	強誘電体太陽電池開発に向けたペロブスカイト型ナローギャップ窒化物のキャリア制御
21		自律システム材料学研究センター	菅井祥加	特任助教	グアニン四重鎖が織りなす液滴内ドメインの解明
22	慶應義塾	理工学	稲垣泰一	助教	化学反応を加速するマイクロ波特異効果の分子動力的解明
23	東京理科	工	岩崎 秀	助教	“異方的イオン拡散制御に基づく多価カチオンのインターカレーション
24	東京農工	工	倉科佑太	テニュアトラック准教授	細胞骨格のタイムラプス観察による超音波応答性イオンチャネル発現の解明
25			高瀬恵子	准教授	ナノ構造を利用した量子センシングと準粒子物性の開拓
26	芝浦工業	工	木須一彰	准教授	持続可能なエネルギー貯蔵を実現するカルシウム蓄電池の電極・電解液設計
27	中部	先端研究センター	服部倫弘	特任准教授	新規ペプチド骨格シラサイクリック化合物を基軸とした強化ペプチド創製および収束型合成技術の確立

28	名古屋	工	金子真大	助教	酸化ストレスと免疫原性細胞死の関係理解に基づくがん治療法の開発
29		理	岩波翔也	講師	数理科学手法による加齢特異的な血球産生の理解
30		トランスフォーマティブ生命分子研	宇佐見 享嗣	YLC 特任助教	昆虫の生物機能を生体触媒に用いた新規機能性分子ナノカーボンの生産
31		学際統合物質科学	森 達哉	特任助教	分子内配位結合を鍵とする環境応答性円偏光発光を示すキラルホウ素 π 電子系の創製
32	名古屋工業	工	宮本辰也	准教授	新しいテラヘルツ分光法を用いたモット絶縁体における光誘起現象の超高速ダイナミクスの研究
33			成田麻未	助教	異種金属材料の固相接合に対する圧縮ねじり加工法の適用
34	岐阜	連合創薬	本田 諒	准教授	超分子標的薬の創成を目指して一新規RAS阻害剤 Ver.3.Xの開発
35	三重	工	木下史也	准教授	n-GVSの印加間隔の違いが体平衡機能に及ぼす影響に関する研究
36			安藤ダニエル明	助教	到来方向推定のための複数の特化型深層ニューラルネットワークに関する基礎研究
37	京都	工	浦谷浩輝	特定助教	構造の乱雑さを考慮した励起状態速度論の確立と発光デバイスへの応用
38			西岡 季穂	助教	電池性能改善に向けた非水系溶媒中の電気化学反応の熱力学的理解
39			ムー ホイイン	助教	細胞内遊離銅イオンの比率測定型を可能にする蛍光分子プローブの開発
40		理	大友章裕	助教	熱源タンパク質の集積化による光熱エネルギー変換システムの開発
41			向吉 恵	助教	連続フロー合成法による金属ナノ粒子/MOFコアシェル複合体の創製
42		化学研	後藤真人	助教	価数不安定性を生かした巨大熱量効果材料の開拓
43		薬学	黒田悠介	特定助教	人工樹脂触媒によるジオールのモノ酸化
44			金尾英佑	助教	生体膜ナノ粒子の人工合成と生物学的機能の理解

45	京都	物質-細胞統合システム拠点	吉村 枉彦	特定助教	革新的分子間相互作用測定技術の創出
46		豊田理研・京大連携拠点	ジョルダノ マットニ	特定助教	せん断ひずみで量子物質の電子特性を解明
47		農学	宗 正智	助教	アミロイド線維構造多型形成反応の直接観察による追跡
48	大阪	基礎工	大日方 初良	特任研究員	熱スピン注入を用いた半導体二次元電子スピンドバイス技術の構築
49		情報	佐々木 勇和	准教授	物質探索のためのグラフ深層学習の事前学習モデル
50		薬学	佐古 真	助教	新規不斉有機分子触媒の開発：環状キラルボリン酸の設計と合成
51		医	辻岡 洋	准教授	哺乳類と小型魚類のゲノムワイドな比較による脊髄再生能を規定する要因の解析
52		産業科学研究	中村友哉	准教授	レンズレスカメラを用いた高精度三次元画像計測
53	関西	環境都市	樋口雄斗	助教	S字型CO ₂ 吸着等温線を示すゼオライトの賦形化技術と操作条件の確立
54	関西学院	理	秋吉亮平	助教	長鎖アルキル基を導入した含硫黄半導体配位高分子の合成と液晶性半導体材料の開発
55	岡山	異分野基礎科学研	田中健太	助教	可視光有機光触媒によるハロゲン化アリの炭素-炭素結合形成反応
56	広島	先進理工	樽谷直紀	准教授	金属水酸化物の単層ナノ粒子を利用した界面電気化学反応の探求
57			久野尚之	助教	ホスト-ゲスト錯体を用いたトポロジカルポリマーの創製
58	山口	創成科学	上田仁彦	准教授	繰り返しゲームにおける独裁的戦略の数理解
59	九州	理	小川知弘	助教	超高速分光を用いた新規ユビキタス金属錯体の光機能の学理構築
60			野下浩司	助教	トロイダル調和関数解析に基づく三次元管状構造の定量評価法の開発

2-1-2. 豊田理研異分野若手交流会

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、「豊田理研スカラー」を対象に、2016年度から実施している異分野若手交流会を2025年度も開催いたします。

さまざまな分野の研究者に集合していただき、異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、新たな研究テーマ創出の機会を提供していきます。

2025年度も、当年度採択のスカラーに加え、過去のスカラー採択者とのネットワークを構築し、年度を跨いだスカラー間の交流の充実を図っていきます。

交流会概要を表7に示します。

表7. 2025年度 豊田理研異分野若手交流会概要

豊田理研異分野若手交流会			
実施年月	2025年9月未定	方法	集会方式
場所	ミッドランドホール（ミッドランドスクエア オフィスタワー5階）		
参加者	豊田理研スカラー他、 豊田理研フェロー、企画・運営委員、審査委員 など		
内 容	研究紹介プレゼンテーション、ポスターセッション、特別講演、懇親会 など		

2-1-3. 豊田理研スカラー共同研究

(1) スカラー共同研究 Phase1

「豊田理研異分野若手交流会」に於いて、スカラー間に生まれた共同研究の芽を支援する「豊田理研スカラー共同研究 Phase1」を実施いたします。

応募のあった10件の内、審査委員会で採択された9件について、表8に記載いたします。

表8. 2025年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase1 採択候補・・・9件

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	東京科学	寺坂尚紘	特任准教授	マイクロ流路デバイスを用いたセルフリータンパク質進化
	立命館	磯崎瑛宏	准教授	
2	大阪	重光 孟	講師	コア・シェル型超分子光増感剤による次世代低侵襲フォトメディシンの開拓
	名古屋	佐藤和秀	特任講師	

3	北海道	石垣侑祐	准教授	膜透過プロセスの解明に向けた環境応答性分子の開発とリアルタイム検出法の確立
	関西学院	佐藤浩平	准教授	
	九州	宮田潔志	准教授	
4	福井県立	篠原秀文	准教授	植物ペプチドホルモンの進化多様性を解明するドライとウェットの真の融合研究
	筑波	原田隆平	准教授	
5	筑波	鄭サムエル	助教	赤外レーザーを用いた電気化学反応制御法の開発
	東京	森近一貴	助教	
6	東邦	柳瀬 隆	講師	化学気相蒸着法による 2 次元金属カルコゲナイドの基盤的合成技術の確立と機能性デバイスの開発
	信州	浦上法之	准教授	
	豊橋技科	引間和浩	助教	
7	東京科学	相馬拓人	助教	薄膜における超高速分光: 準安定量子物質における非平衡電子相の開拓
	東京	鈴木 剛	助教	
8	慶應	小川愛実	専任講師	ラフ集合を用いた安全・安心な次世代在宅リハビリテーション支援システムの開発
	九州	顧 玉杰	助教	
	京都	石井順恵	助教	
9	東京科学	金森功吏	助教	合成化学とゲノム生物学の融合による化学的遺伝子制御法の基盤技術開発
	九州	河添好孝	助教	

(2) スカラー共同研究 Phase2

Phase1の実施を経て、更に大きな進展が期待できるテーマについて、スカラー共同研究評価委員会の評価・選考によりPhase2へと移行します。

Phase2では助成金の追加、メンバーの補充等を行い、

- ・異分野連携型「新研究領域」の創出
- ・グループリーダーの育成
- ・優秀な若手研究者間の人材ネットワークの構築 を目指していきます。

1チーム年間600万円を2年間支援していきます。

2024年度に実施したスカラー共同研究Phase1の10チームの中から、2025年度のPhase2へ進む3チームを表9に示します。

表 9. 2025 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 進出候補・・・3 件
* チームリーダー

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋工業	* 大幸裕介	准教授	イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能なタンクレス固体推進機の開発
	豊田工業	渡邊保真	准教授	
	三重	田港 総	助教	
2	早稲田	* 出浦桃子	准教授	排熱有効利用システムに向けた熱電と蓄電のデバイス性能向上
	豊橋技科	引間和浩	助教	
	大阪	石部貴史	講師	
	三重	田港 総	助教	
3	防衛医科	* 杉山夏緒里	助教	しなやかさに着目した血管老化モデルの構築
	名古屋	清水一憲	准教授	
	静岡	大多哲史	准教授	
	京都	三浦理紗子	助教	

2024年度に実施したPhase2 2年目の3チームを表10に示します。
この3チームの中からPhase3へ進む1チームを2025年度内に選出します。

表 10. 2025 年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (2 年目) …3 件

No.	大学	氏名	職位	共同研究テーマ
1	名古屋	* 田畑 亮	特任講師	持続可能な食料システム構築および宇宙農業を目指した植物栄養吸収制御と土壌開発
	筑波	重田育照	教授	
	慶應義塾	高橋英俊	准教授	
2	大阪	* 大塚洋一	准教授	薬物動態・代謝を可視化する高空間分解能質量分析イメージング技術の開発
	名古屋市立	小山 聡	教授	
	岐阜	古山浩子	准教授	
3	京都	* 菅瀬謙治	教授	動的溶液環境のセンシングおよび液-液相分離の制御と計測
	名古屋	吉田紀生	教授	
	岐阜	池田 将	教授	
	豊橋技科	永井萌土	教授	
	京都	中曽根祐介	助教	
	京都工芸繊維	櫻井康明	准教授	

2-2. フェロー制度

2-2-1. ライジングフェロー

日本国内の大学に所属する教員で、科学技術の分野において世界をリードする研究者に対して、大型の研究助成を継続的に実施することにより、研究の更なる進展を加速し、学術の振興、発展、および人材育成に貢献するための支援制度です。

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者に助成を行う事で、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」としてサポートしていきます。

募集は2024年2月1日から行い、フェロー選考委員会で選考・審査を行いました。2025年4月から年間最大2,000万円を最長5年間支援していきます。

表11に採択されたライジングフェロー1名、表12に2年目のライジングフェローを示します。

表 11. 豊田理研ライジングフェロー 採択者・・・1名

	氏 名	研究テーマ
1年目	打田正輝 東京科学大学 准教授	量子幾何学非対角輸送応答の開拓

表 12. 豊田理研ライジングフェロー

	氏 名	研究テーマ
2年目	大野 真之 東北大学多元物質科学研究所 准教授	アニオンの複合化で拓く固体イオニクスの フロンティア
	後藤佑樹 京都大学理学研究科化学専攻 教授	ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進
	朴 昭映 大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任准教授	生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と創薬基盤プラットフォームの構築

2-2-2. シニアフェロー

世界トップレベルの業績をあげている定年を控えた一流研究者に助成を行う事で、所属する大学等を拠点に研究を継続していただき、当該分野の更なる進展が期待される者を「シニアフェロー」として支援する制度です。年間最大5,000万円を最長5年間助成します。

なお、シニアフェローの募集は、ライジングフェローの応募・採択状況により検討していきます。

2-3. 特定課題研究

2021 年より特定課題研究の募集を休止しています。

(2021 年 10 月 11 日 第 43 回理事会 承認済み)

2-4. 若手人材育成事業

2-4-1. 海外大学院進学支援

優秀な日本の学生が国内の大学、大学院から博士号(Ph.D.)取得を目的に、海外の大学院進学を目指すことを支援する制度です。

＜応募条件＞

- (1) 国際科学オリンピック国内大会一次選考（予選）通過者
- (2) 国際バカロレア認定校（DP）卒業者（スコア＞36以上）
- (3) 大学や財団などによって選抜され、2カ月以上の海外留学、インターンなどを経験した者。但し、単なる語学留学は除く。

選考委員による審査の結果、前年度に採択された者を含め、現在 12 名が留學生活を送っています。

また、準備コース 1 名も、現地大学の調査や訪問などの準備・調査を進めています。

表 13. 海外大学院進学支援対象者

＜海外大学院進学コース：留学支援中 12 名＞

氏 名	山田啓介
応募時所属	早稲田大学先進理工学部 電気・情報生命工学科 学部 4 年
留学先	ペンシルベニア大学
留学予定期間	2022 年 8 月 ～ 2027 年 6 月
応募要件	国際科学オリンピック

氏 名	釜堀恵輔
応募時所属	東京大学 理学部情報科学科 学部 4 年
留学先	ワシントン大学
留学予定期間	2023 年 9 月 ～ 2028 年 9 月
応募要件	海外留学、国際科学オリンピック

氏名	島澤 理
応募時所属	東京大学 医学部医学科 学部 6 年
留学先	スタンフォード大学
留学予定期間	2023 年 9 月 ～ 2028 年 8 月
応募要件	海外留学

氏名	南出光悦
応募時所属	慶応義塾大学 理工学部化学科 学部 4 年
留学先	エモリー大学
留学予定期間	2023 年 8 月 ～ 2028 年 5 月
応募要件	海外留学

氏名	蚊谷 光
応募時所属	京都大学理学研究科 学部卒
留学先	ジョージア工科大学
留学予定期間	2023 年 8 月 ～ 2028 年 8 月
応募要件	海外留学

氏名	佐藤明日花
応募時所属	東京大学 化学生命工学専攻 学部卒
留学先	カリフォルニア工科大学
留学予定期間	2023 年 8 月 ～ 2028 年 5 月
応募要件	国際バカロレア

氏名	堀内美佑
応募時所属	慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科 学部卒
留学先	ペンシルベニア大学
留学予定期間	2023 年 9 月 ～ 2028 年 9 月
応募要件	海外留学

氏名	前田清州
応募時所属	東京大学学際情報学府 博士 1 年
留学先	プリンストン大学
留学予定期間	2023 年 9 月 ～ 2028 年 5 月
応募要件	海外留学

氏名	笹木宏人
応募時所属	東京大学理学部数学科 学部 4 年
留学先	セントルイス・ワシントン大学
留学予定期間	2024 年 9 月 ～ 2029 年 8 月
応募要件	国際科学オリンピック

氏名	野間裕太
応募時所属	東京大学 電気系工学専攻 博士 2 年
留学先	トロント大学 (カナダ)
留学予定期間	2024 年 8 月 ～ 2028 年 8 月
応募要件	海外留学

氏名	久野桃子
応募時所属	東京都立大学 生命科学専攻 修士2年
留学先	パデュー大学
留学予定期間	2024年8月～2029年7月
応募要件	海外留学

氏名	三木武志
応募時所属	慶應義塾大学 総合政策学部 学部4年
留学先	ケンブリッジ大学
留学予定期間	2024年9月～2028年9月
応募要件	国際バカロレア

<海外大学院進学コース：留学準備中4名>

氏名	奥田航大
応募時所属	東北大学 経済学部経済学科 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	永島来悟
応募時所属	東京大学 物理学専攻 修士2年
留学先	カールスルーエ工科大学
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	幅 優斗
応募時所属	九州大学 機械航空学科 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

氏名	伏見宗太郎
応募時所属	京都大学 機械システム学専攻 学部4年
留学先	選定中
留学予定期間	2025年9月～2030年8月
応募要件	海外留学

<海外大学院進学準備コース：1名>

氏名	王 方成
応募時所属	東京大学 電気系工学専攻 修士1年
準備活動	現地大学の事前調査・訪問
応募要件	海外留学

なお、2025年の募集に関しましては、2025年2月3日～5月7日までの間で公募を行っており、本年もより多くの学生に門戸を拓けています。

今後続く後進のメンター役や、将来の豊田理研のコミュニティづくりなどにも協力してもらうため、留学支援終了後の2年間についても若干の追加支援を行っています。

2-4-2. 寄付

若手人材育成を目的に活動している公的機関や財団、組織等の中から、その活動が当財団の目指す方向と合致する場合、その支援のために寄付を行う制度です。毎年、余剰金が見込まれる場合、寄付を検討します。具体的な寄付先、金額等はその都度理事会、評議員会で承認、決議いただく事にいたします。

3. 広報活動

3-1. 豊田研究報告の刊行（第 77 号）

2024 年度在籍のフェロー、客員フェローの研究報告に加え、豊田理研スカラー、スカラー共同研究の研究報告を記しました。2025 年 6 月に発行いたします。

詳細は、ホームページよりご高覧ください。

3-2. アニュアルレポートの発行

2024 年度の財団 1 年間の活動を掲載したアニュアルレポートを発行します。財団の取り組み、目指すものを分かり易く記録としてまとめました。

2025 年 6 月に発行いたします。

3-3. ホームページの維持、管理

当財団の理念、および助成制度を若手研究者や広く一般の方に分かり易くお伝えすることを目標に、ホームページを刷新いたしました。従来の「財団概要」、「事業紹介」、「募集情報」、「イベント情報」等を分かりやすく整理するとともに、人材育成に注力する運営方針や新しい助成制度の魅力がより直接伝わるサイトにしております。

2025 年度は掲載内容をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたします。また、更に分かりやすいホームページを目指して改良を進めて参ります。

役員・評議員名簿

(2025(令和7)年4月1日見込)

	氏 名	現 職 等
理事長 (代表理事)	豊田章男	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
所長 (理事)	天野 浩	名古屋大学 未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積センター センター長・教授
常務理事 (業務執行理事)	菊池 昇	株式会社トヨタコンポン研究所 取締役所長
理 事	伊藤公平	慶應義塾長 (学校法人慶應義塾理事長 兼 慶應義塾大学長)
	上杉志成	京都大学 化学研究所 教授
	五神 真	国立研究開発法人理化学研究所 理事長
	唯 美津木	名古屋大学 物質科学国際研究センター 教授
	長谷川眞理子	独立行政法人日本芸術文化振興会 理事長
	増田義彦	学校法人トヨタ学園 理事長

	氏 名	現 職 等
監 事	山本正裕	トヨタ自動車株式会社 経理本部 本部長

	氏 名	現 職 等
評 議 員	有馬浩二	株式会社デンソー 取締役会長
	伊藤浩一	株式会社豊田自動織機 取締役社長
	内山田竹志	トヨタ自動車株式会社 エグゼクティブフェロー
	貸谷伊知郎	豊田通商株式会社 取締役社長CEO
	志満津 孝	株式会社豊田中央研究所 取締役所長兼CRO
	藤岡高広	愛知製鋼株式会社 取締役会長
	吉田守孝	株式会社アイシン 取締役社長